サポーティングスタッフ・オブ・ザ・イヤー

【UNIVAS：サポーティングスタッフ・オブ・ザ・イヤー】

　応募申請書

　　　　　令和　　年　　月　　日

長崎国際大学学長　殿

申請大学・団体の所在地

申請大学・団体の名称

申請者役職・氏名

下記のとおり応募します。

記

1. 被推薦者名等（募集要項4.(2)応募条件①、募集要項5.(1）審査の認定要件①)

|  |  |
| --- | --- |
| 被推薦者名 | 　 |
| サポート対象（大学・部活/競技団体） | （例）〇〇大学××部 |
| 学校名 |  |
| 学部・学科・専攻・コース等 |  |
| 学年(応募時点) | 　　　　　　　　　　　　　　　 年 |

1. 応募者の概要

|  |  |
| --- | --- |
| ふりがな | 　 |
| 3-1団体名（正式名称） | 　 |
| ふりがな | 　 | 役職名 |
| 3-2代表者名 | 　 | 　 |
| 3-3所在地 | 〒　 |
| 3-4連絡先（窓口担当者） | 氏名 | TEL |
|
| 所属・役職 | メールアドレス |
|

1. 応募条件に係る確認事項（募集要項4.(2)応募条件②・③）

応募条件に係る確認事項について、確認の上当てはまる場合のみ○を記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
|  | 当該個人について、氏名・所属の公表が可能である |
|  | 法令上または社会通念上、表彰するにふさわしくないと判断される問題等を起こしていない |

1. 取組の概要（審査の認定要件②）

|  |
| --- |
| 概要（枠は適宜広げて記載ください） |
| 4-1サポート対象との関係・役割  |  |
| 4-2取組の内容・特徴 |  |
| 4-3目的（誰に対して、何を目的として行っているか） |  |
| 4-4　取組の期間、頻度等 |  |
| 4-5　背景（取組を開始したきっかけ、ニーズ） |  |
| 4-6 取組による効果（取組によって生じた変化） |  |

【参考】

|  |
| --- |
| 概要（枠は適宜広げて記載ください） |
| 4-1サポート対象との関係・役割  | * サポート対象（○○大学△△部）のマネージャー
 |
| 4-2取組の内容・特徴 | * ベンチ入りしていないメンバーのための交流試合（トーナメント大会）を企画・開催した。
 |
| 4-3目的（誰に対して、何を目的として行っているか） | * 公式戦への出場機会がない・乏しい部員（他校を含む）に対し、試合出場機会を与え、部活動を盛り上げること。
 |
| 4-4　取組の期間、頻度等 | * 平成30年9月に取組に賛同した本校の部員（選手）及び他校の部員（マネージャー）5名と実行委員会を発足、同年11月に第1回大会を開催した。
* 以後現在まで約半年に1回のペースで開催している。
* 被推薦者は本年度卒業見込みであるが、この取組に賛同した後輩たちが実行員会に参加し引継ぎ中であり、来年度以降も大会は継続予定である。
 |
| 4-5　背景（取組を開始したきっかけ、ニーズ） | * 強豪校のため部員数が多く、厳しい練習を積んでも試合に出られる（ベンチ入りできる）のはごく一部のみであった。
* 練習試合の機会はあったが、それでも部員全員は出場できず、入部してから引退まで試合に出られないまま卒業する部員もいる状態であった。
* 試合に出られずモチベーションを下げる部員や、退部してしまう部員を見て、自分に何かできないかという想いから本取組を企画・開催した。
 |
| 4-6 取組による効果（取組によって生じた変化） | * 部員全員に試合に出る機会があることで、モチベーションの向上・維持に繋がった。
* 交流試合をとおし実戦経験を積んだことで、ベンチ入りできたメンバーがいる。
* 第1回の出場校は本校含め4校であったが、回を重ねるごとに増え、直近では12校の出場があった。1校あたり約30名のベンチ入りしていない部員が出場したので、単純計算で360名の学生に対し試合出場の機会を創出した。
 |